

# あこがれの先輩に学んだ 心の交流から始める生徒指導

岩手県 盛岡市立上田中学校校長 **伊藤好男** ITO YOSHIO

教師は日々、さまざまな働き掛けの中で生徒を育てる。そして教師は、共に働く仲間との出会いの中で育っていく。出会いから学んだ教育の原点、そして次代を担う若い世代に伝えたい不易を、伊藤校長が語る。

## 先輩の学級経営の手法を まねて気付いた

民間企業から転身して教師になったのは27歳の時です。希望に胸を膨らませて赴任した中学校は、喫煙、授業妨害、器物破損などが日常的に見られる荒れた学校でした。

学級経営に悩む教師が多い中、物静かながら毅然とした態度で生徒に接し、誰からも慕われる先生がいました。1学年主任を務めていた永田豊先生です。当時40歳くらい、担当教科は国語で、指導の傍ら詩集を発行される詩人でもありました。常に

言葉遣いが丁寧で、声を荒らげる姿は見たことはありません。生徒と永田先生の間には深い心の交流があったからでしょう。受け持ちの学級はよくまとまっていました。

永田先生の指導を象徴していたのが、生徒向けの学級通信です。テーマは友情や悩み、劣等感、自尊心など、思春期の心の成長を願うもので、班ノートなどに書かれた生徒の言葉を引用し、「君はどう思うか」と考えさせているのが印象的でした。例えば、「友だちが掃除をさぼっているけれど注意できない」という発言を取り上げ、「本当の友情とは



いとう・よしお 電機メーカーに約2年勤務後、「夢のある教育の仕事に就きたい」という思いで、大学に戻り教員免許を取得。大迫町立大迫中学校、盛岡市立上田中学校、盛岡教育事務所主任指導主事などを経て現職。専門は数学。

1980 (昭和55)  
大迫町立 (現花巻市立)  
大迫中学校に赴任。  
永田豊先生と出会う



大迫中学校時代  
教壇に立つ伊藤先生

1984 (昭和59)  
盛岡市立上田中学校に  
赴任。菅原義子先生、  
本田正弘先生と出会う

1993 (平成5)  
花巻教育事務所  
指導主事に就任

2000 (平成12)  
盛岡教育事務所  
主任指導主事に就任

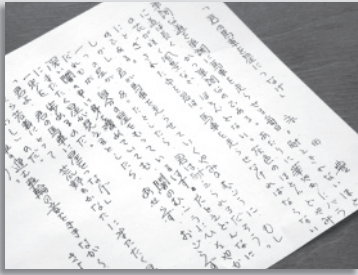
2003 (平成15)  
軽米町立  
小軽米中学校に  
校長として赴任

2009 (平成21)  
盛岡市立上田中学校に  
赴任

何か」「友だちの不正を許せるのか」と問い掛けていました。生徒が自分と向き合い、友だちとのかわり方を考える機会とし、良心や正義感を育てていたのです。そんな永田先生は、私にとって「カッコいい先輩」でした。少しでも近づきたくて、同じように学級通信を発行し、文体をまねたこともありました。

永田先生たちとお酒と共に交わした教育談話も貴重な学びでした。永田先生は学級経営に関する理論も豊富で、学級目標の決め方や班のつくり方など、一つひとつの活動に意味があることを教えて下さいました。私も触発されて、学級経営に関する書籍を読みあさり、必死で勉強したことを思い出します。

荒れた校内は、やがて静かになりました。教師が心を一つにし、生徒



永田先生が卒業生に向けてつづった詩。普段から言葉に重みがあり、存在感のある先生だった

を上手に盛り立てて運営させた「学校正常化運動」の成果でした。生徒の大半は、「物言わぬ善良な子ども」です。教師の働き掛けで本来の良心を引き出し、生徒会を中心に生徒自身が声を上げ、一部の生徒による問題行動に対して「ノー」と明言できる環境をつくったのです。思春期は、教師の言葉に抵抗感を抱きやすいものですが、同年代の言葉には敏感です。同級生からの否定に対し、問題行動のある生徒は「自分たちは支持されていない」と感じ、次第に落ち着きを取り戻しました。

### 校長からの情報発信を通し心の交流を図る

1991年、勤務校（上田中学校）が全国算数・数学教育研究大会の事務局となり、私も運営に携わりました。この時、事務局長を務めた先輩の菅原義子先生、そして岩手県の算数・数学教育研究の中心人物だった盛岡市教育委員会主任指導主事の本田正弘先生からは、数学教育の面で強い影響を受けました。教科指導力を高め続けることは教師の本分。数学教育にかける情熱、妥協しない執念など、学んだことは計り知れませ

## 生徒へはいつも笑顔で接し、

## 夢と希望を語る



ん。この頃から「岩手の数学教育の発展」を意識し始め、96年、本田先生が立ち上げた中学校数学の学習会「創造的思考を学ぶ会」に参加。現在は私が事務局長を務めています。

校長になってからは、学校づくりの第一歩として校長からの情報発信を大切にしています。校長が何を考え、どんな学校を創ろうとしているのか、その「夢と希望」を周囲に伝え、一人ひとりの力の向き（ベクトル）を揃えたいと考えています。そ

して、そのことが学校を変える大きな動きにつながると信じています。先生方には「職場通信」を発行して夢を語り、例えば「人の良い点は見ようと努力しないと見えない」というメッセージを伝えていきます。保護者へは随筆調の「学校だより」を発行し、学校教育への理解と協力をお願いしています。そして、一番大切な生徒への情報発信は、廊下で擦れ違う時も「いつも笑顔で接し、夢と希望を語る」を信条としています。